

補聴器店で、耳穴の形状と聞こえの程度に合わせたオーダーメイドの補聴器を薦められ、右耳用一つを40万円で購入した。しかし、食事の際のかむ音が我慢できないほどうるさく、補聴器を交換したい。

(70歳代 女性)

一般的な補聴器は、法律上の「管理医療機器」に当たり、使用目的や効果について「身体に装着して、難聴者が音を増幅して聞くことを可能とすること」と定められています。補聴器に形状が似ている「集音器」や「助聴器」は、難聴者が補聴目的で使用する商品ではなく、法律で定めた管理医療機器には当たりません。

一般社団法人「日本補聴器工業会」は、補聴器によって聞き取りやすくなる効果がどれくらい期待できるかをあらかじめ知るためにも、購入前に耳鼻咽喉科医（補聴器相談医）の受診を勧めています。

補聴器は、購入前後の聞こえの調整や、定期的な清掃などのアフターケアが重要です。店舗や訪問販売のほか、通信販売でも購入することができますが、専門医から補聴器が必要と診断された場合は、補聴器専門店の認定補聴器技能者による「フィッティングサポート」で調整してもらい、家族や周囲の人と相談しながら適切な器種を選びましょう。

補聴器には、形状によって耳穴型、耳かけ型、ポケット型、メガネ型、特殊補聴器の5種類があるので、自分が実際に使用する環境に合わせて選ぶことが大切です。同じ器種でも、フィッティングは一人ひとり異なることから、一定期間、試しに装着して聞こえの効果や装用感、使いやすさなどを確認しましょう。

購入する際は、保証内容や契約内容をしっかりと確認し、納得してから購入しましょう。もし、トラブルになってしまった場合は、最寄りの消費生活相談窓口に相談してください。